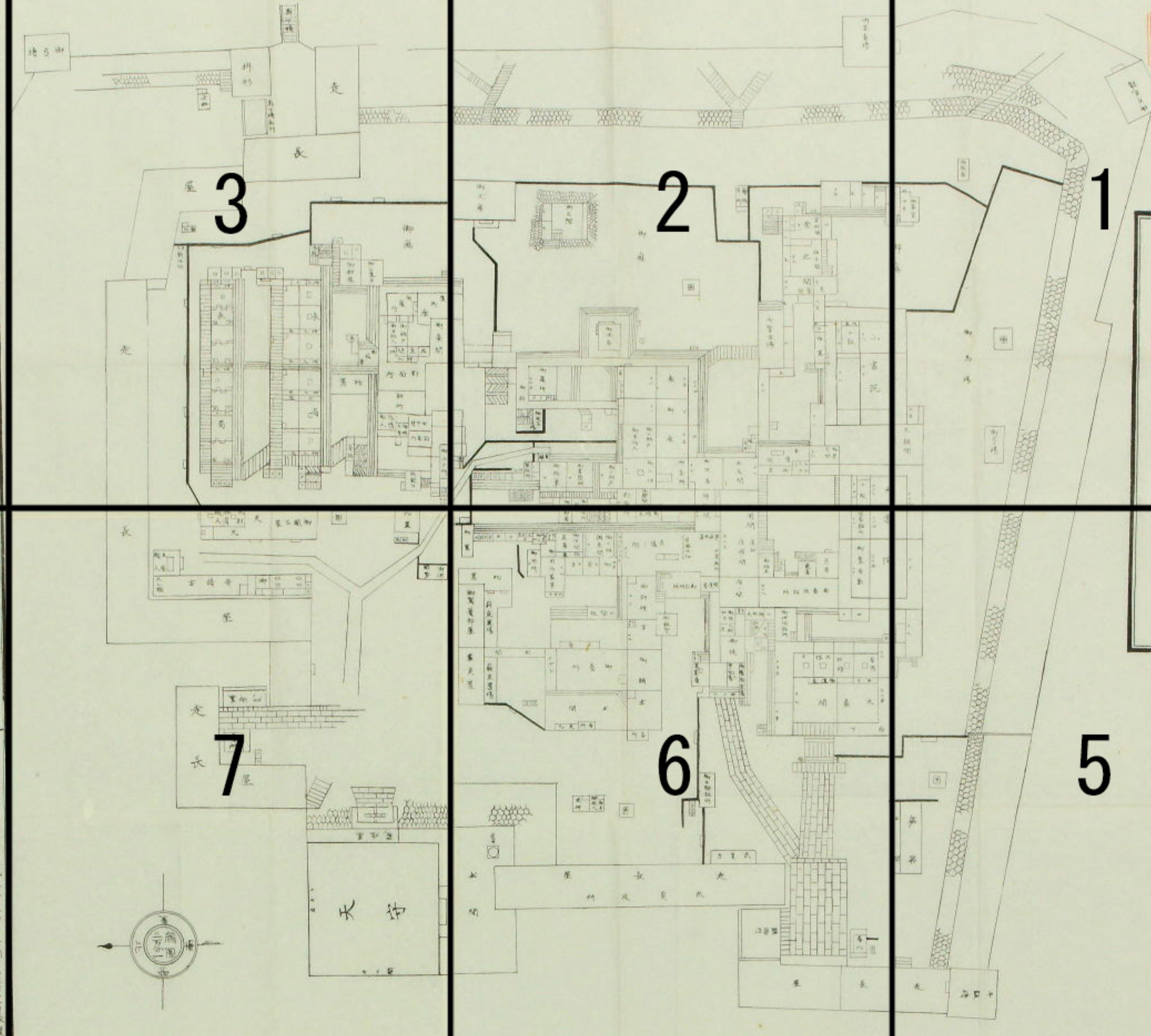


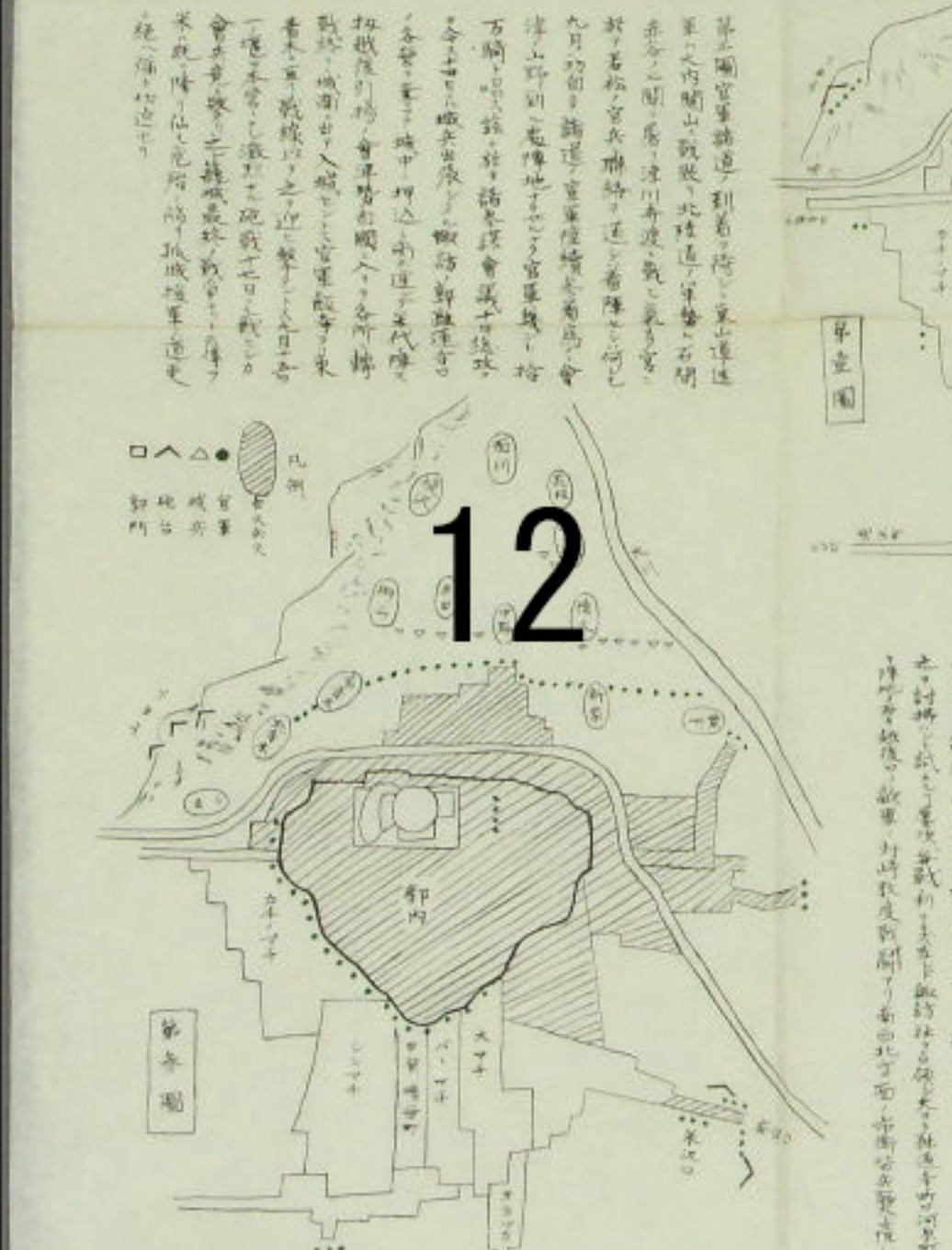
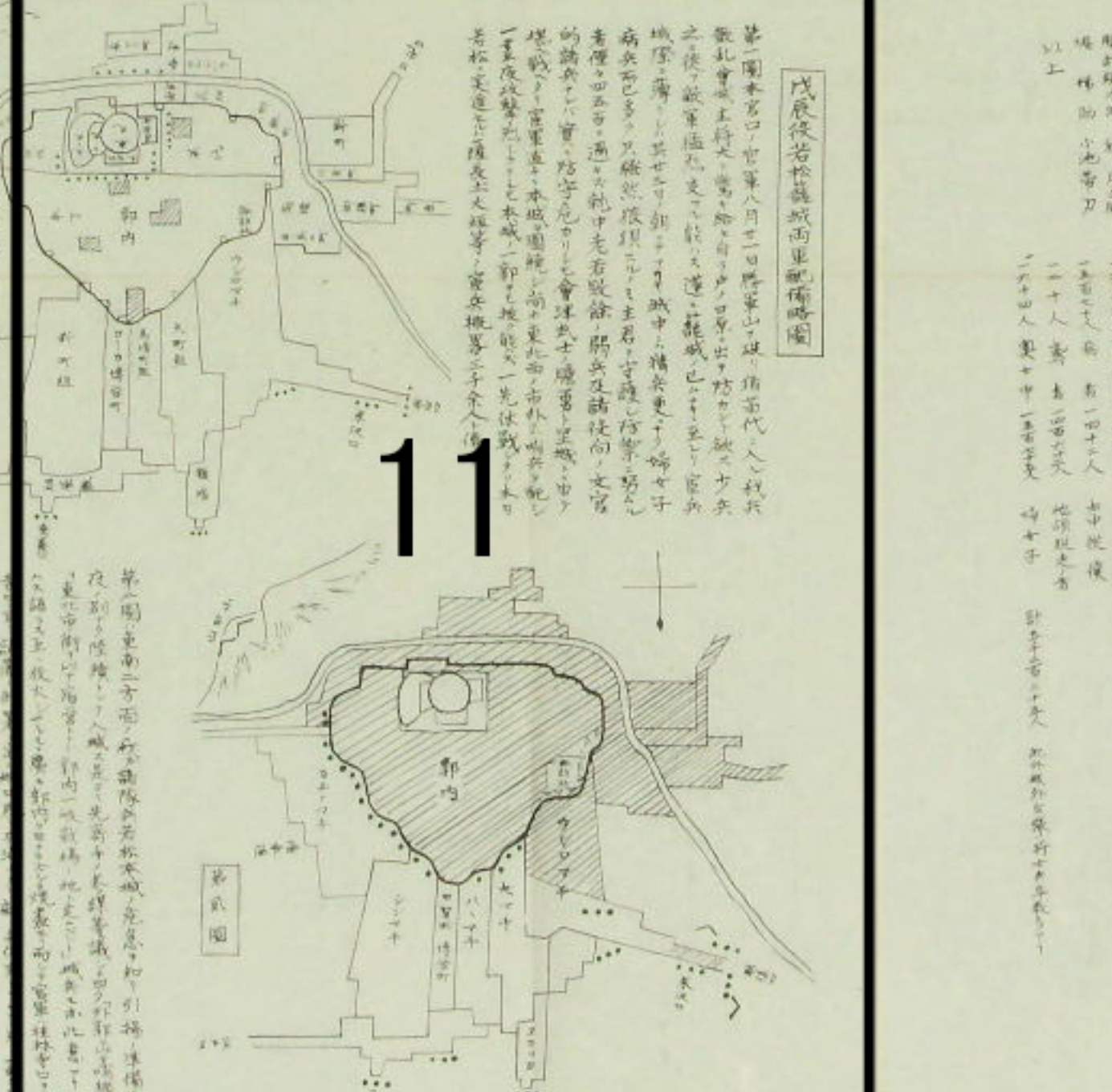
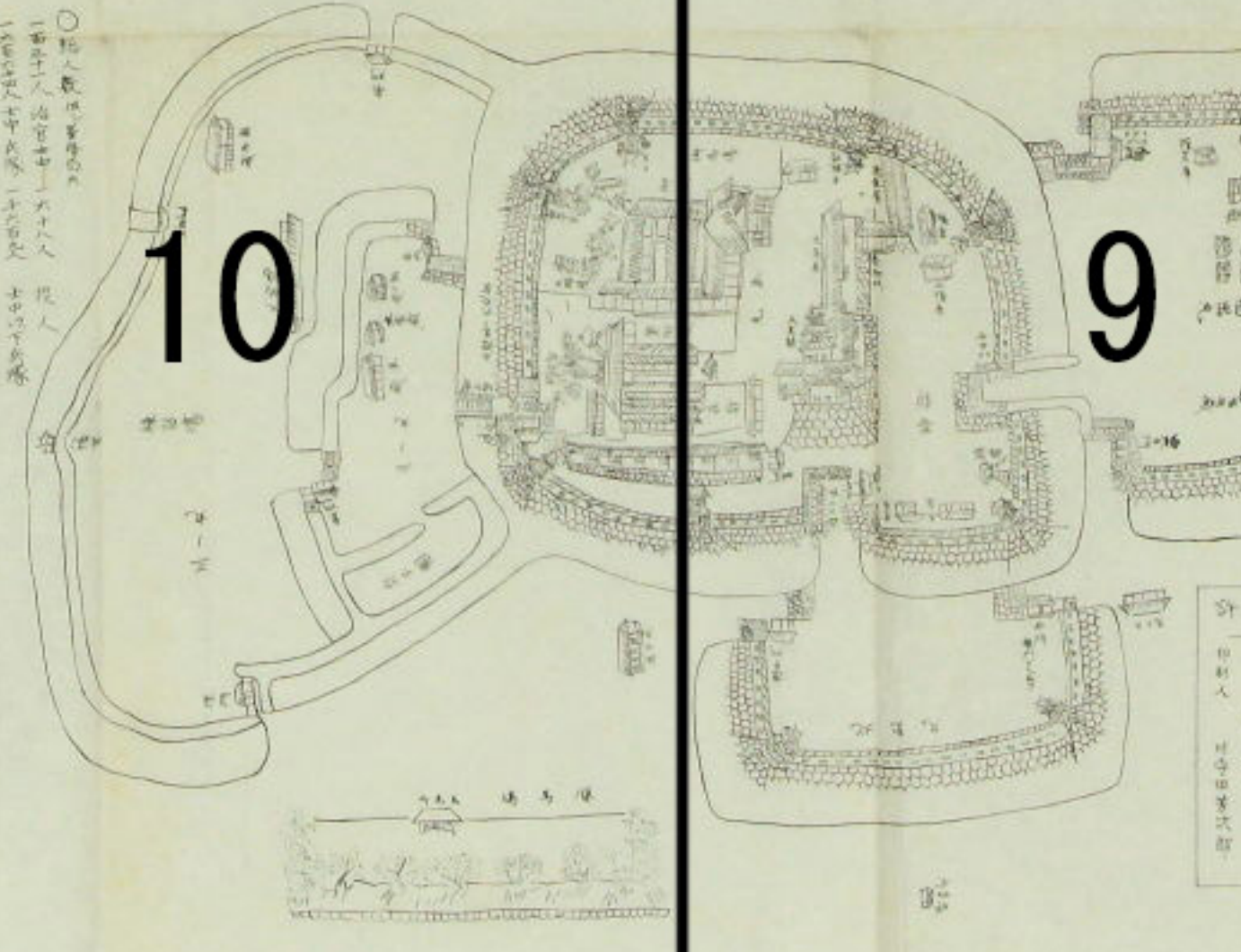


會津鶴ヶ城御本丸之圖



備考 (Reference) section containing detailed historical notes and descriptions related to the castle's architecture and its significance.

會津鶴ヶ城明細圖



Vertical scale markings on the right edge of the page, ranging from 1 to 100.

五良門  
號 410  
卷 2



御馬場

# 會津鶴ヶ城御本丸之圖

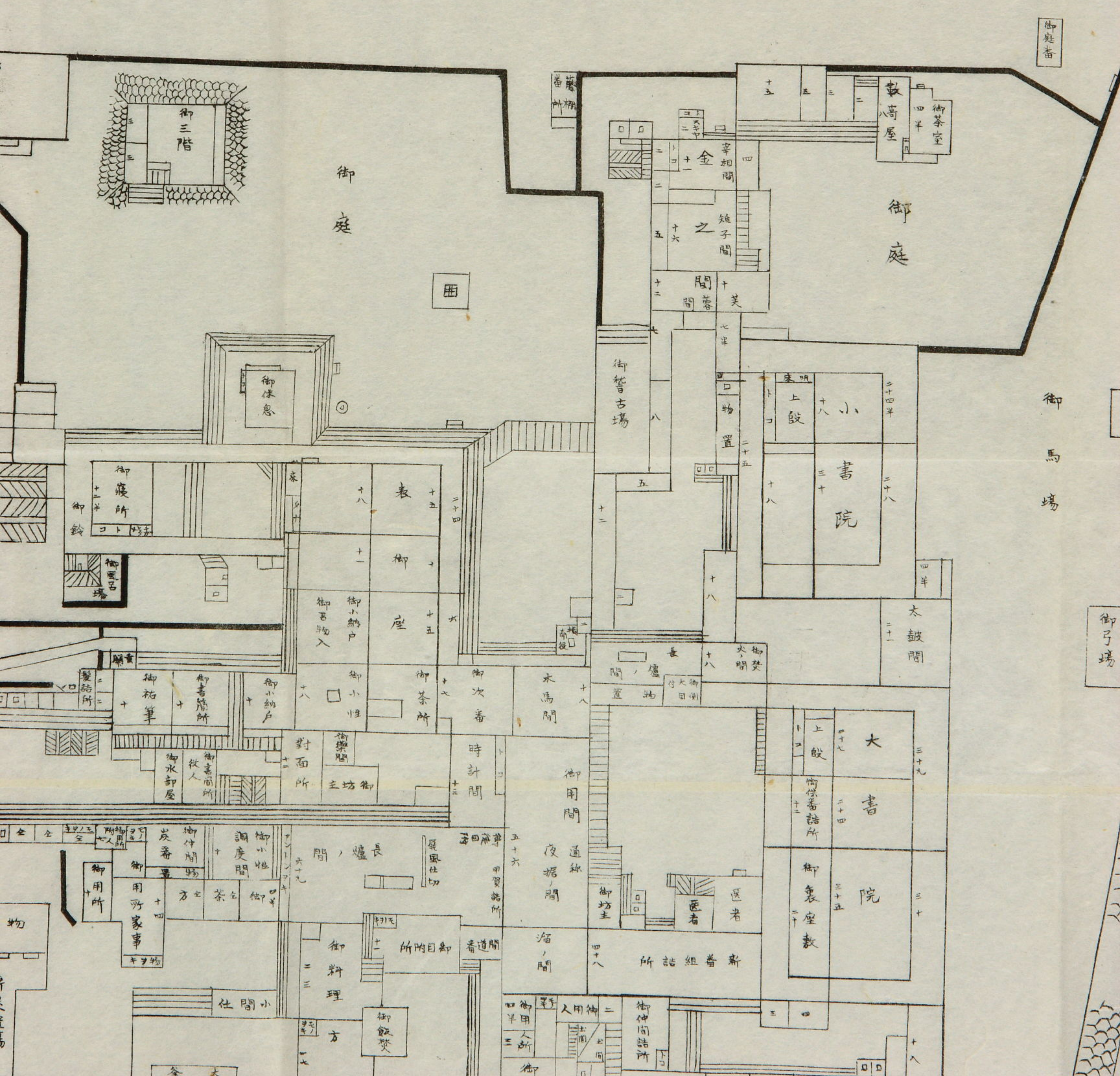
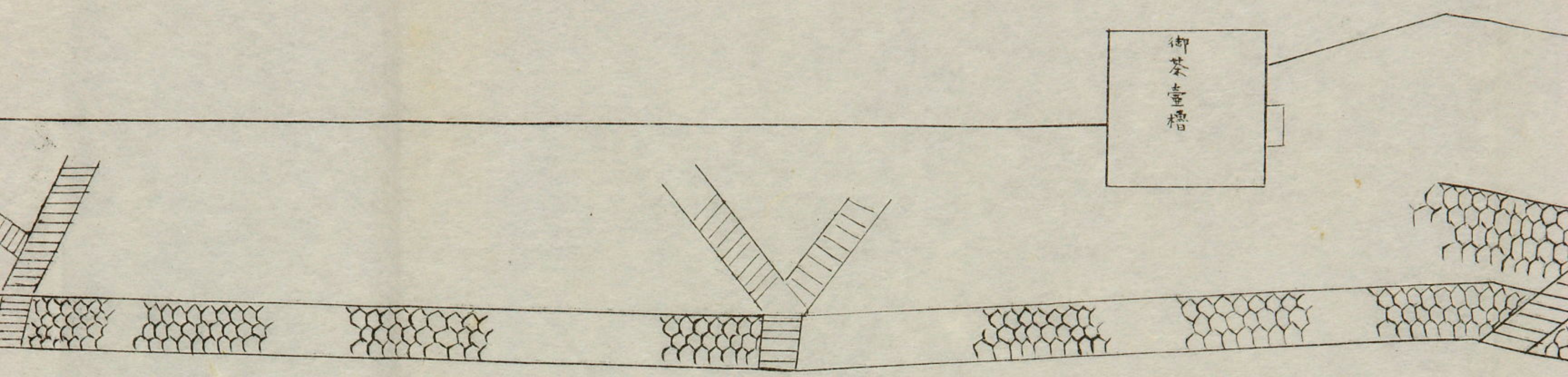
御庭番

御

御馬場

御弓場





御茶壺槽

御庭番

御三階

御庭

御茶室  
御高屋

御庭

御休息

御馬場

御寢所

表

書院

御座

太鼓間

御茶所

御用間

大書院

御水部屋

御次番

御裏座敷

御用所

御料理

御坊主

御小間

御飯焚

御用人所

御仲間詰所

櫓弓御

廊下橋

枱形

走

所番

廊下橋御門

長

屋

御文庫

御庭

新仕切

御部屋

御公達方

走

長

長

御座

御座

御廣間

御納戸

御納戸

御物入

御物入

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

御間直

置物

所面對

詰所

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

御入膳

職人

木羽

丸

夫

御風呂屋

長

職人屋

大工職

方請普

御

屋

御駕籠部屋

薪炭置場

物置

物置

物置

物置

物置

物置

物置

物置

物置

物置

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

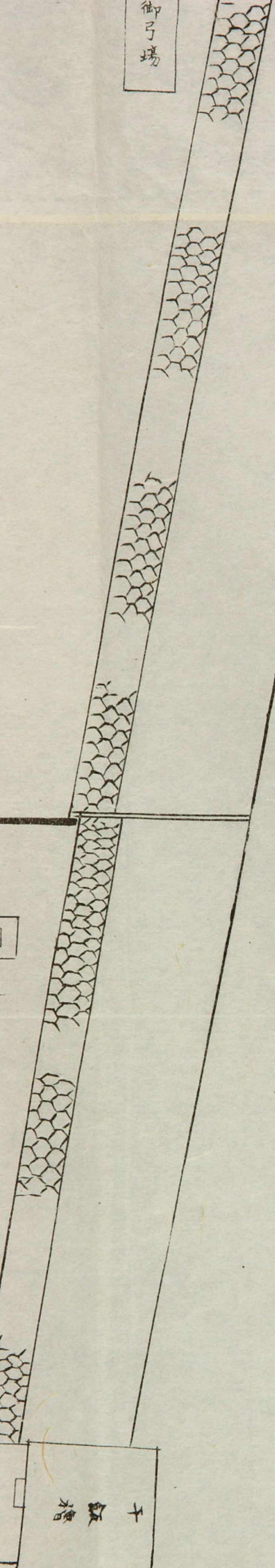
# 備考

○殿中館舎經歷  
 天文五年黒川城  
 本丸炎上スト舊  
 記ニ書セリ蒲生氏  
 郷城郭ヲ修理セシハ  
 文祿中其間略四  
 十年アリ殿中ノ構  
 造ハ既ニ備ハリシモ  
 ト想フ何トナレハ當時  
 昔名ノ末世中興ト  
 稱ル威望高武威氏  
 公ノ時代ニシテ天下大  
 ニ亂レ戰國ノ中ニ在リ  
 ナカラ領土誠ニ平穩  
 ナリシト炎上後  
 數十年後屋臺迄  
 謂フセリ政宗ノ入  
 城ニ無事ナリ於テヤ  
 左心戊辰至ニ殿舎  
 星霜三百余年ヲ  
 經過セシモト信ス  
 只氏郷カ教寄屋  
 茶亭ニ新設セシ  
 ト考フ猶ホ將來識  
 者ノ伎ヲ知ルベキナ  
 リ

御殿ノ表奥ヲ大別ス○金ノ間ハ重臣ノ秘密會見ノ大小ノ書院  
 ハ御儀式的ノ用ニル○表御座ノ間ハ主公ノ御居間ナリ○御近習  
 ト稱フルモノ凡テ御側ニ仕ル者ヲ云フ○御書簡六人(三百石以上)御  
 次番三人(持以上)御祐筆五五人(三百石以上)御小納戸四人  
 御小性二十人此内奥番四人御膳番四人(八十人)御側医四  
 人常詔三人(持以上)御番医十六人(五十人)都合式拾人毎夜二  
 人詔御奏者番六人(格式御敷居外三百石以上)御刀番三人(三百石以上)  
 御使番十二人(三百石以上)右三役ハ御時計間詔指南役四五人  
 (文武ノ御指南番)江戸表ニ御聞番二人(三百石以上)武臣ハ御供番四  
 五十人(五十石以上)御徒士五六十人(五十石以上)中之口ニ四人詔御徒目  
 附(十三石)御坊主頭二人其一人ハ山本氏代々百五十石一人ハ登庸ニ  
 テ(十三石)組頭四人(八十石)御茶番四人(持)御座ノ間時計間  
 御書簡所共十五人(三十石)アリ  
 ○御用ノ間夜据ノ間ト稱ヘ政局ニシテ重役ノ詔所ナリ家老三吏(以)  
 若年寄二人(以)奉行三人(以)大目附三人(全)以上列席御  
 用所密事若干人御用所役人若干名何レモ士分以上ニシテ重役ニ任  
 ルモノ也但シ夜据ノ間ト唱ヘ原因ハ保科家以前蒲生加藤ノ時代ニシ  
 カ鷹ノ夜据ヲナセシ廣間ナリトノ傳説アリト西郷頼母翁白ヘリ

○御用人三人(以)アリテ御臺所ノ奥向一切司ル○御臺所ノ  
 席(十三石)役人四人(六十石)買物役二人下役四人附人八人都合十六人○  
 頭二人獨禮席組頭四人御煎方六人御次前四人御膳部役  
 仕大人都合二十八人以上ノ各役各半數ヲ出勤シタリ身合ハ御  
 △御城衛士御玄關大廣間ハ番頭八組御家老附ノ隊三組  
 御家老附組頭(三百石)番頭(二百石)番頭組織番頭又組頭  
 將隊ノ組頭二人組士三十余人ヲ以テ一組トス總テ十一組トス○一  
 外様士拾石三人扶持新番組士五人扶持以上○新番ノ組織  
 士三四十人アリ昼夜二人詔○御供番四人詔○御徒士中之口四人  
 裏詔御留主ノ片ハ徒士詔所即千中ノ口ニ詔○北大平太  
 一又組足輕若干名昼夜詔切○武具奉行ノ御天守ヲ始メ御  
 △奥御殿ノ老女四人(九十石)若年寄四人(七十石)表仕四人(六十石)御  
 筆五人(四十石)御次番五人(三十石)御茶間四人(三十石)御三間ト稱ヘ  
 凡テ三十七人アリ○御仕立所ハ御台所ナリ○長局二棟ニ女  
 男子ノ部○女中付役人三人(三十石)御徒目付三人(三十石)御錠口番  
 (小使ノ一)  
 △石祿ノ理由 知行千石ノ儀也(一俵四年儀ト唱ヘテ)此内四個一  
 官ノ貯蓄米トシテ引去リ七百五十俵ヲ渡スナリ其貯蓄法ハ

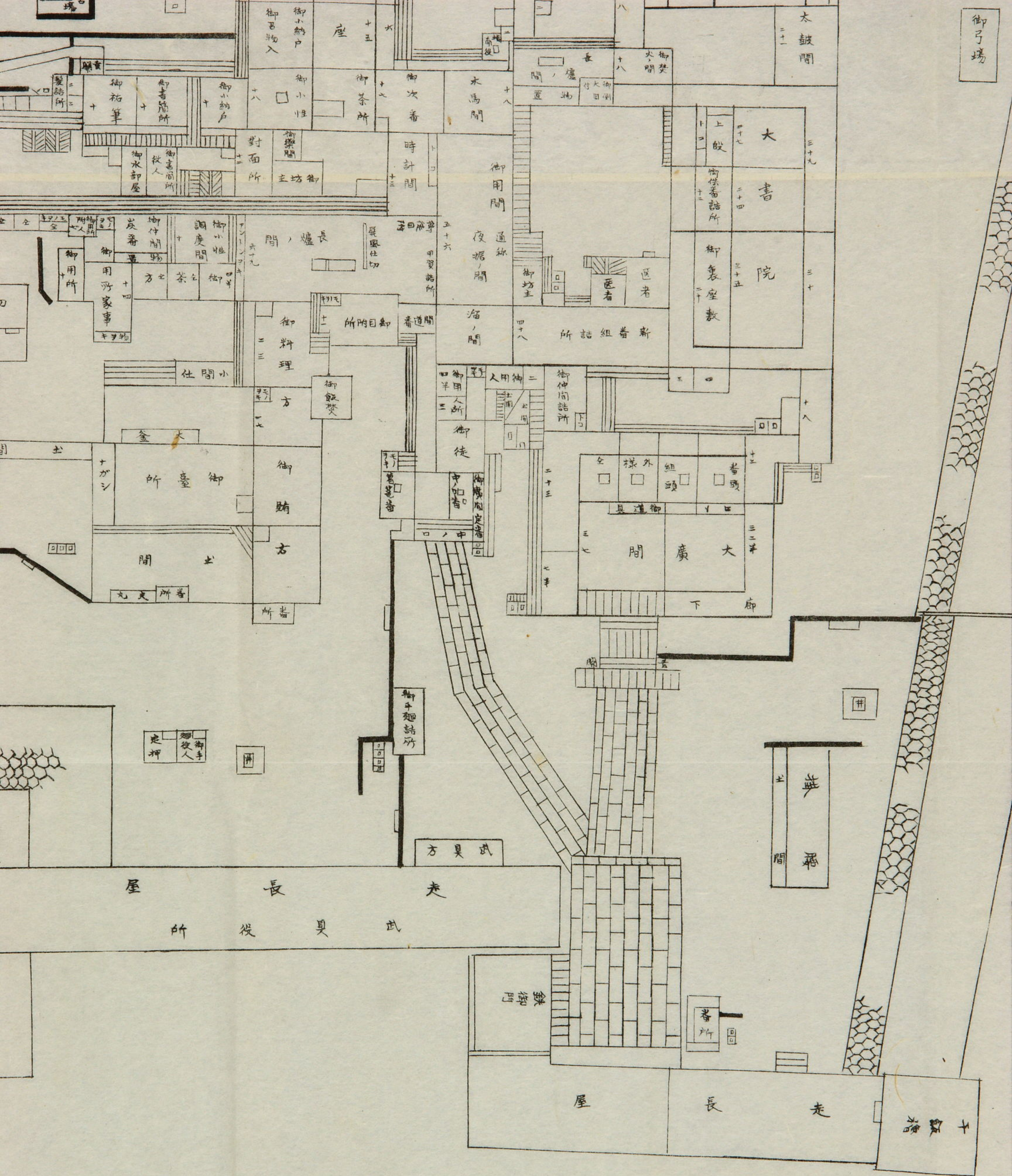
# 御本丸之圖



御弓場

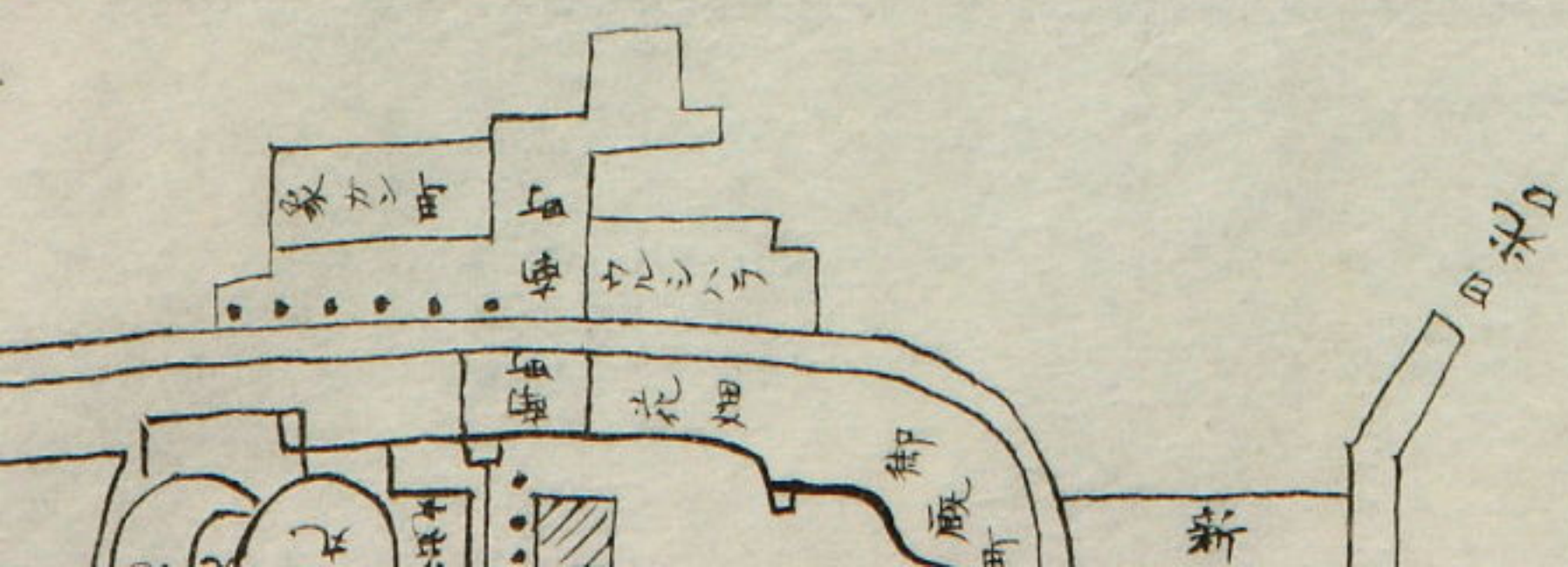
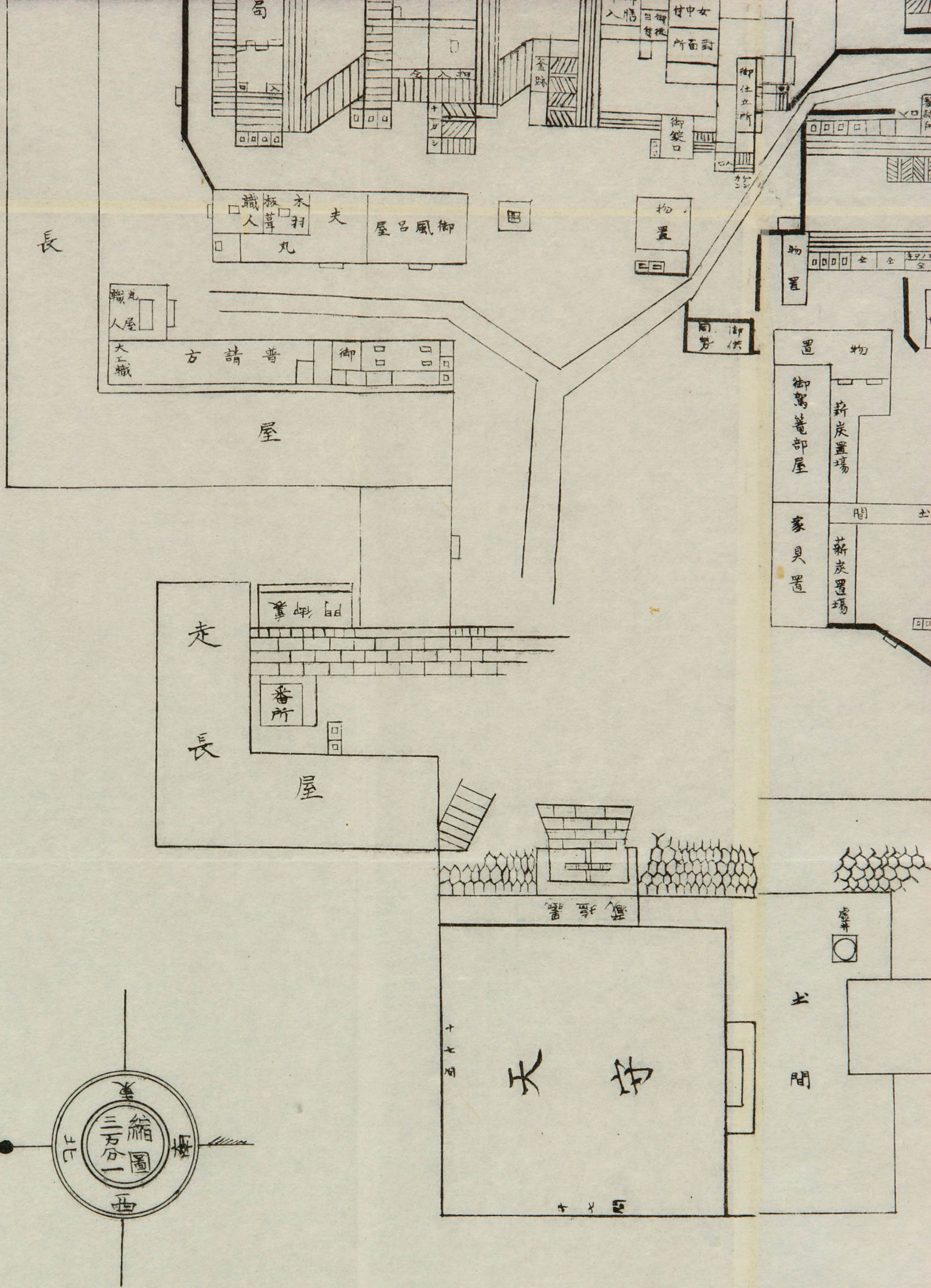
十級堀

柳当城ハ昔々名  
 元年創業セシ  
 名家十数代  
 正十七年義親  
 政宗之ニ入ル也  
 依リ藩生氏  
 元年入城大ニ城  
 井ヲ改正ス上  
 両家ニ亦居城  
 二十年保科正  
 後累世連綿  
 戊辰至ル二百  
 松平容保公關  
 後陸軍省ノ  
 シニ故アリ當今  
 ノ所有ニ歸シタ  
 城地面積ニ十  
 五畝歩ミテ水一  
 七反廿七歩ナリ  
 戊辰籠城ハ八月



城地ノ面積ニ  
 五畝歩三シテ  
 七及廿七歩  
 戊辰龍城ハ八  
 九月下旬ニ到  
 九殿中危険ニ  
 子鉄門ニ出御  
 場ヲ定メ九如左  
 君側  
 本丸并  
 軍事係  
 北出丸  
 西出丸  
 三ノ丸  
 廊下橋口ノ際  
 町  
 ◎内政ニ契カリ  
 萱野權兵衛  
 内藤外右衛門  
 山川大藏  
 井深茂右衛門  
 倉沢右兵衛  
 小森一貫齊  
 神尾織部  
 星河内左之丞  
 辰野源左門  
 桃沢彦次郎  
 騎西信藏  
 中林三良右衛門  
 春日軍吾  
 黒河内逸八  
 水島弁治  
 大江和右衛門  
 中山甚之助  
 服部錠次郎  
 堀悌助  
 以上





第一圖本宮口  
 散乱會城主以  
 之ニ從テ敵軍  
 城際ニ薄リシ  
 病兵而已多ク  
 者僅々四五百  
 的諸兵ナレバ  
 堪ヘ戦ヘタリ  
 一晝夜攻撃等  
 若松ニ突進セ

戊辰

御臺所、奥向一切司ル。御臺所、御賄頭二人、獨禮  
三人(以番頭)アリテ、御賄頭三人、獨禮  
一人(以番頭)買物役二人下役四人附人八人都合十六人。御料理方、御台所  
獨禮席組頭四人御煎方六人御次前四人御膳部役三人御飯焚三人小間  
都合二十八人以上、各役各半數、出勤シテ身合、御賄方同様御取扱也  
衛士御玄關大廣間、番頭八組御家老附、隊三組、詰所(番頭七百石以上)  
先附組頭(以番頭)番頭、組頭(石以上)番頭組織番頭八組頭二人外様士四十人陳  
組頭二人組士三十余人ヲ以テ一組トス總テ十一組トス。一組一昼夜受持ナリ  
拾石三人扶持新番組士五人扶持以上。新番、組織、頭一人組頭二人組  
人アリ、昼夜二人詰。御供番四人詰。御徒士、中之口四人詰。與力、長圍爐  
御留主、片、徒士詰所即千中、口二人詰。北大平太鼓、兩御門、各物頭  
足輕若干名昼夜詰切。武具奉行、御天守ヲ始メ御城内兼備(武具一切ヲ  
御殿、老女四人(九兩以上)若年寄四人(七兩以上)表仕四人(六兩以上)御小性五人(全上)御祐  
人(四兩以上)御次番五人(一)御茶間四人(三兩以上)御三間ト稱、御賄番五人(銀八十兩  
二十人)御仕立所、御台所、御台所、長局二棟、女中方住居セリ  
部、女中付役人三人(三兩以上)御徒目付三人(三兩以上)御錠口番六人(中制、丸丸六人  
御上府、四月十五日御歸國、翌年八月  
御道主中、八重役等會所、詰御用人、割場内御用人所詰

之節、如キ臨時費用、充ツキカ爲也故、寺社等、其制ナク百石、百俵渡セリ  
○扶持米、理由、外様士、十石三人扶持新番組、五人扶持與力、三石二人扶持  
足輕、六石二人扶持、定給ナレ其以上給與セラレ、キ多シ石數ハ本石ニシテ拾  
石、即チ二十五俵又扶持米、一人ト一日五合、割合ナレ外様士、三十八俵二  
斗、定給ナリ、咸、此法ヲ以テ行フナリ  
△家士、分限、紐制、大体ハ士分、紐制、巾制、三階級トス  
其士分、内、最高士御敷居内(大組物)御納戸紐高士平士、別ナク黒紐猪苗代城付  
(俗ニ十騎ト云フ)ノ士、紺紐新番組士、花色紐其他ニモ此紐ヲ用ユ者多シ以上士分  
ト稱ス此子弟、學校即チ日新館、教育ヲ受ク獨禮、茶紐ニテ御徒士與力等ヲ始メ  
諸役人、萌黃紐淺黃紐ヲ用ユ之ヲ紐制ト云フ此子弟等ハ南北素讀所(俗ニ學館ト云フ)  
ニ於テ教授ヲ受ク以下襟制ニシテ足輕以下、小者ヲ云フ黒色半巾、柿色半巾淺黃  
半巾其身合ニ依リ襟地ヲ概々テ敢テ紐、何色ヲ問ハス此巾制ニ、其身合、武  
術即チ弓銃ヲ始メ其各業務ノ練習ヲ授クル而已ニシテ學術ノ教訓ナカリシ  
△女中ニモ制度アリテ三等階級アリ御次(士方格御仲居(紐制格)御末(巾  
制格)等ニテ紐制ナク唯服装ヲ以テ分キナリト謂フ

御上府、四月十五日御歸國、翌年八月  
御道主中、八重役等會所、詰御用人、割場内御用人所詰

御上府、四月十五日御歸國、翌年八月  
御道主中、八重役等會所、詰御用人、割場内御用人所詰

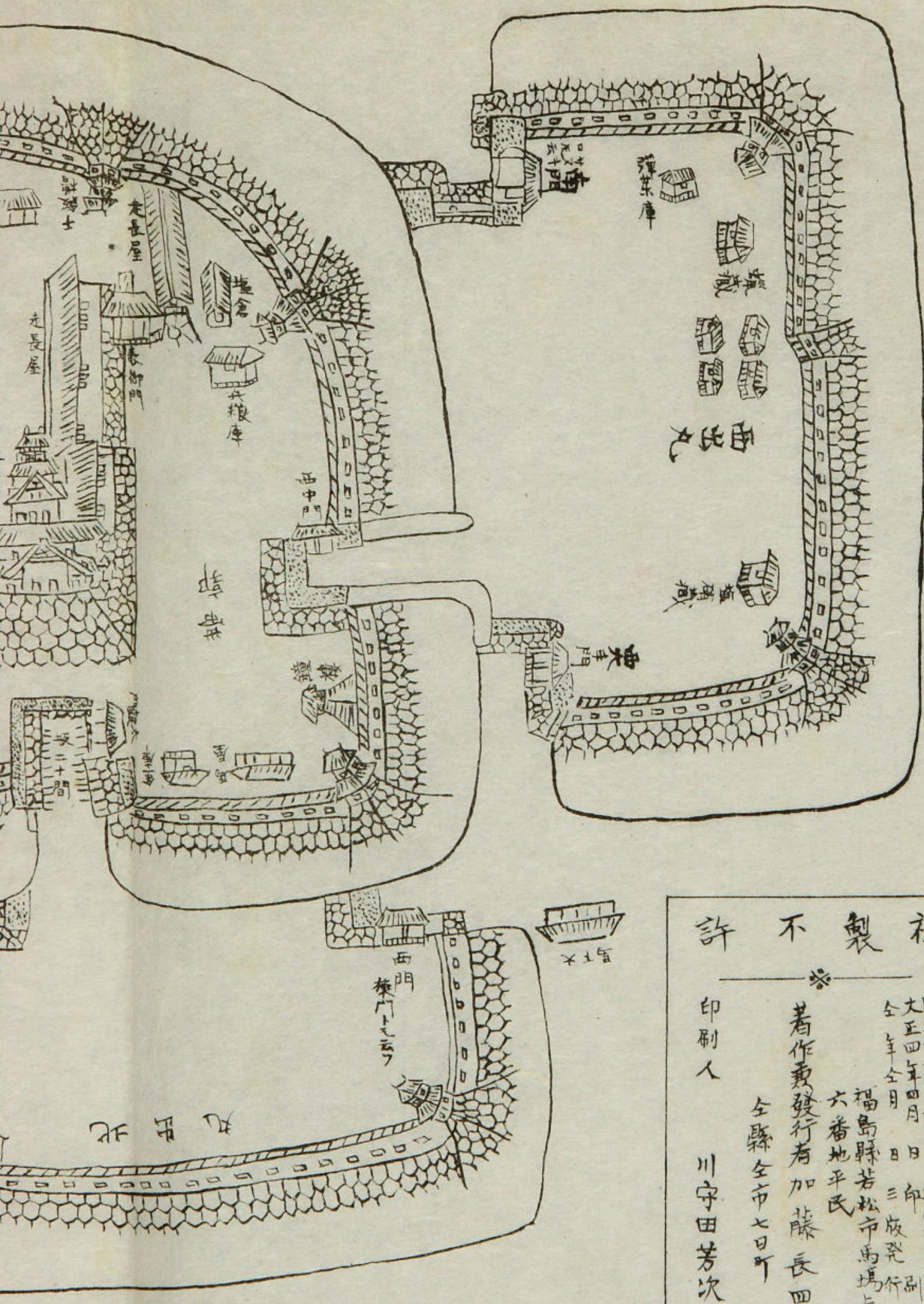


第三圖官軍諸道  
軍火内關山戰  
赤谷ノ二關ヲ屠リ  
於テ若松ノ官兵聯  
九月初旬、諸道  
津、山野到ル處陣  
万騎ト唱ス茲ニ於  
ヲ令ス十四日、城兵出  
ノ各營ヲ奪テ城中  
扱越後引揚ノ會  
戰終リ、城南ニ出テ入  
青木ニ亙リ戰線以テ  
一壘ヲ本營トシ激烈  
會兵竟、敗リ之ヲ  
米ハ既ニ降リ仙毛危  
ニ絶ハ彌々切迫セリ

柳当城ハ此戸名直盛至徳元年創業也シ以來此戸名家十数代居住ス天正十七年異裁廣七ヒテ政宗之ニ入ル豊公ノ命ニ依リ蒲生氏郷文祿元年入城大ニ城郭布井ヲ改正ス上杉加藤ノ両家モ亦居城ス寛永二十年保科正之公入國後累世連綿トシテ慶應戊辰ニ至ル二百廿有余年松平容保公開城維新後ハ陸軍省ノ所管タリシヲ改メリ當今松平家ノ所有ニ歸シタリ

城地ノ面積二十九町二反五畝歩ミテ水面ハ九町七反廿七歩ナリ  
戊辰籠城ハ八月下旬ヨリ

會津鶴ヶ城明細圖



定價金參拾錢

複製 不許  
明治三十八年六月 初版發行  
明治四十年十月 再版發行  
大正四年四月 印刷  
全三冊 全三冊  
福島縣若松市馬場上一町  
六番地平民  
著作發行所 加藤長四郎  
全縣全市七日可  
印刷人 川守田芳次郎

城地面積二十九町二反  
五畝步三ツラ水面八九町  
七反廿七步ナリ

戊辰籠城ハ八月下旬ヨリ  
九月下旬ニ到ル守戰中本  
丸殿中危険ニ君公御父  
子鉄門出御了陳將ノ固  
場ヲ定ムル如ク

君側 梶原平馬  
本丸并 山川大藏  
軍事係 原田對馬  
北出丸 海先多郡治  
西出丸 内藤以右工門  
三ノ丸 廊下橋口 中隊 町野伴左工門

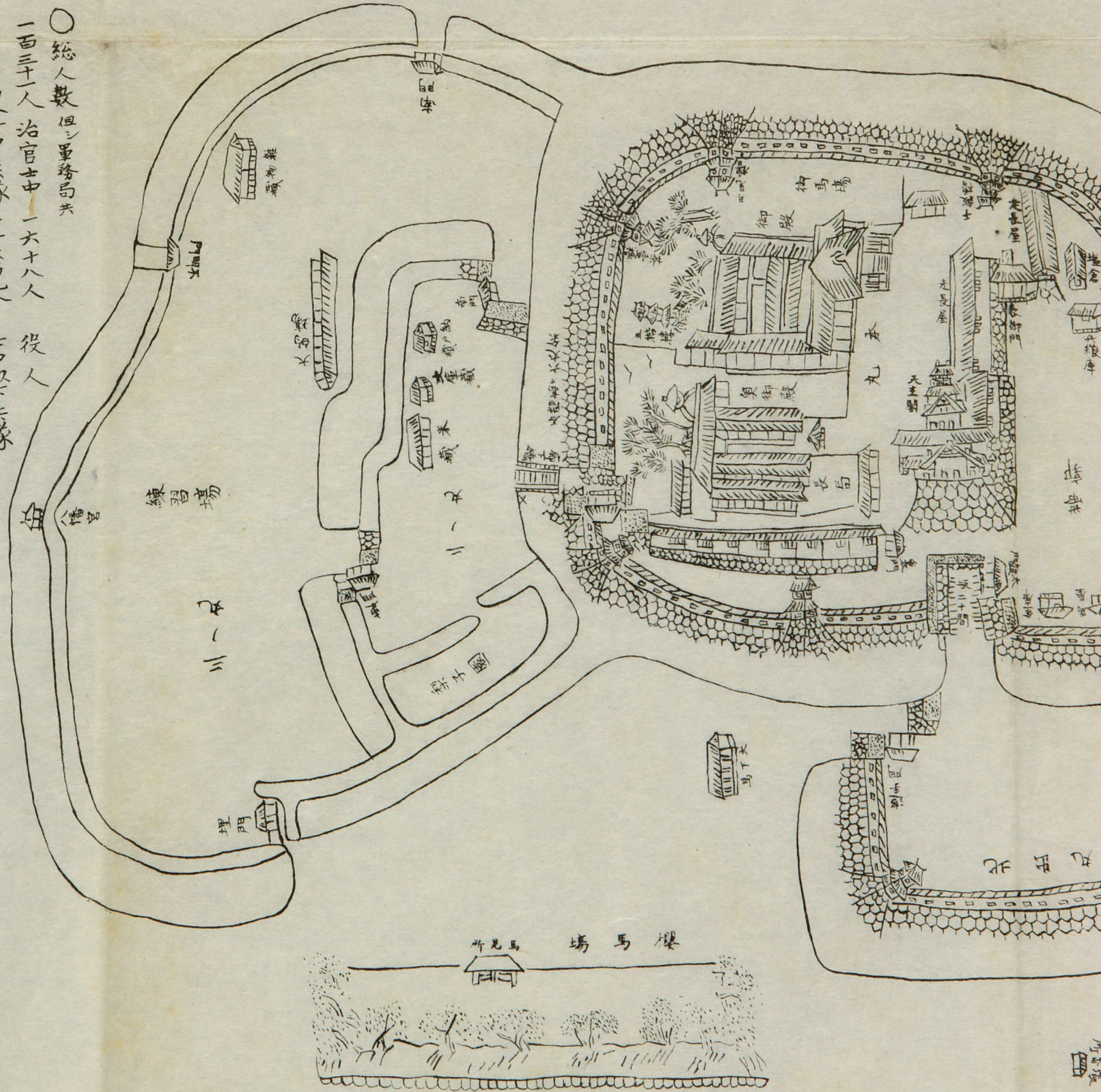
○内政ニ契カリタル人名

菅野權兵衛 梶原平馬  
内藤以右工門 原田對馬  
山川大藏 海先多郡治  
井深茂左工門 田中原之進  
會沢右兵衛 手代木直右門  
小森一貫齊 黒河内傳八  
神尾 織部 井深守之進  
星河内太之丞 竹村助兵工  
辰野源左工門 野口九郎太夫  
挑沢彦次郎 吉川直記  
騎西信藏 秋月悖次郎  
中林三良右前 清水作左前  
春日軍吾 小森駿馬  
黒河内速八 竹筒井茂助  
水島弁治 小出鉄之助  
大江和右工門 飯田左門  
中山甚之助 村岡友之進  
服部親次郎 林房之助  
堀 悌助 小池帶刀  
以上

○総人数 但シ軍務局共

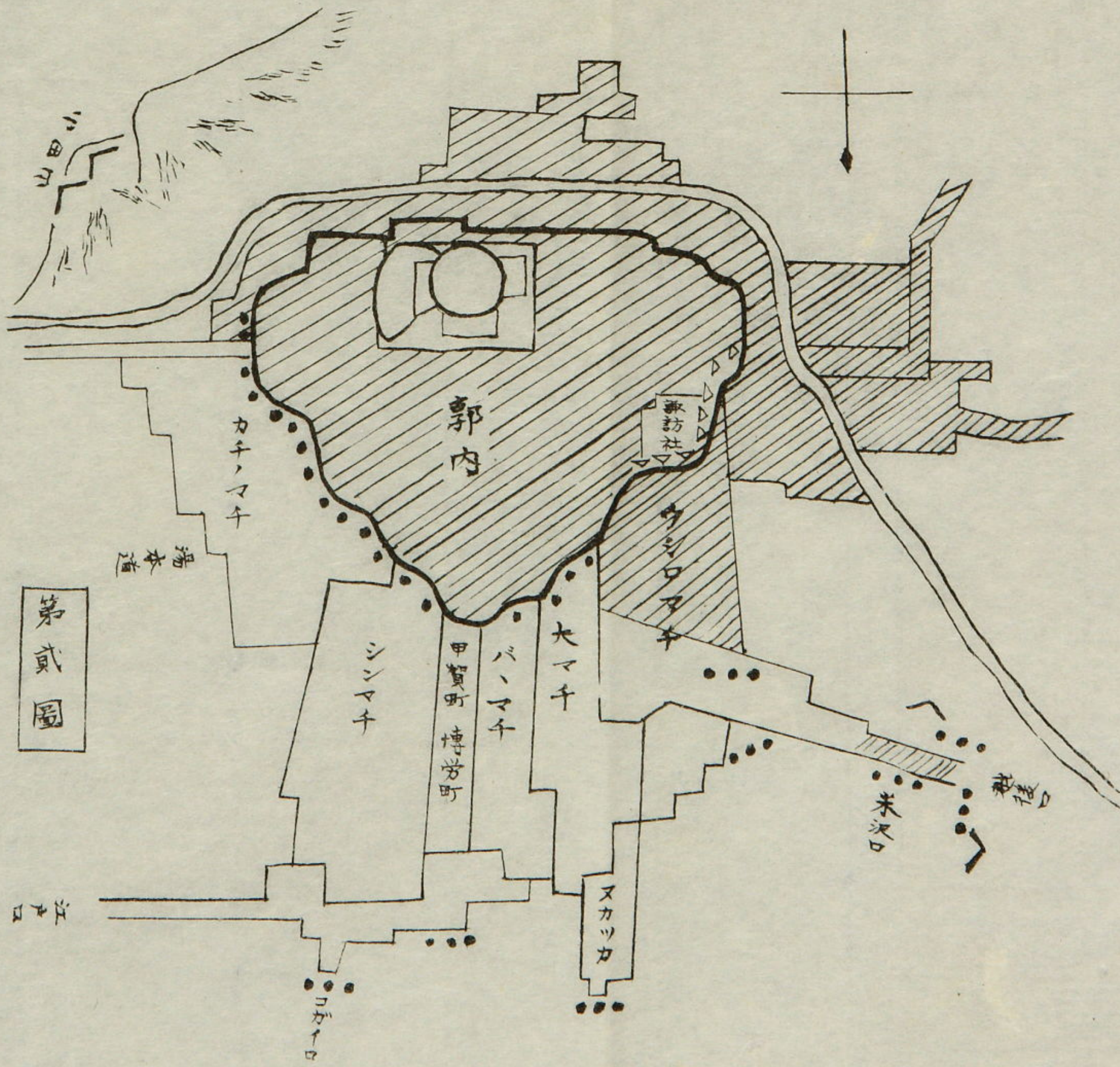
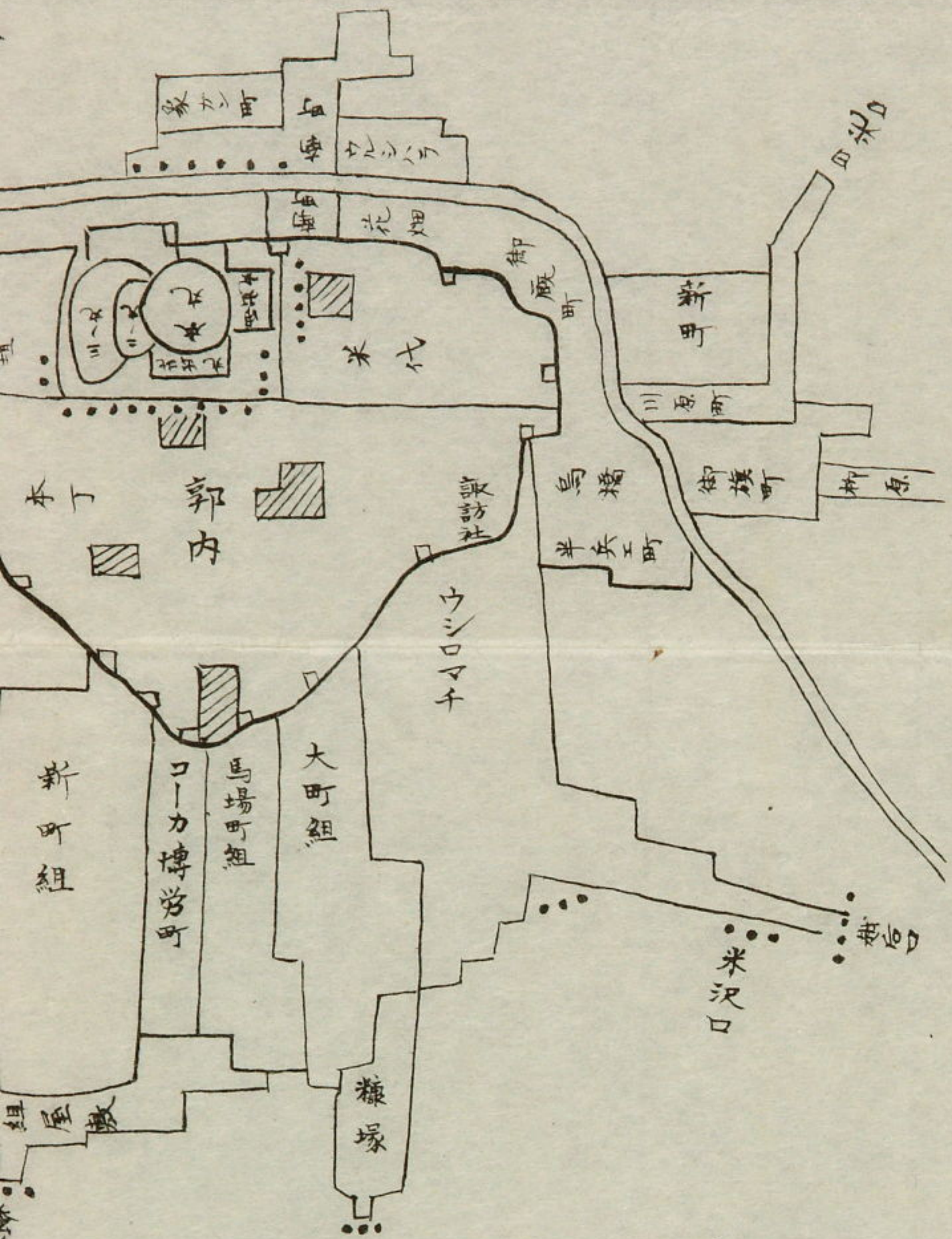
一百三十一人 治官士中 一六十八人 役人  
一六百六十四人 士中兵隊 一千六百九人 士中以下兵隊  
一五百七十八人 病者 一四十二人 士中從僕  
一二十人 鳶者 一四十六人 他領脱走者  
一六十四人 奥女中 一五百七十八人 婦女子

計五千三百三十五人 此外城外出張將士兵卒数多アリ



戊辰後若松藩城兩軍配備略圖

第一圖本宮口ノ官軍八月廿一日勝軍山ヲ破リ猪苗代ニ入ル残兵散乱會城主將大ニ驚キ給と自ラ戸ノ口原ニ出テ防カント欲ス少兵之ニ從テ敵軍猛烈支フル能ハス遂ニ龍城ノ已ムキ至リ官兵城際ニ薄リシ其廿三日ノ朝テアキ城中ニ精兵更ニテク婦女子病兵而已多ク只騒然狼狽スルノ主君ヲ守護シ防禦ニ努ムル者僅々四五百ニ過キズ執中老若敗餘ノ弱兵及諸役向ノ文官的諸兵ナレバ實ニ防守危カリシモ會津武士ノ膽勇ト堅城ト由テ堪ヘタリ官軍直チニ本城ヲ圍繞シ尚ホ東北西ノ市外ニ哨兵ヲ配シ一晝夜政擊等列シカリシモ本城ノ一郭ヲモ援ク能ズ一先休戰シタリ本日若松ニ突進セル薩長土大垣等ノ官兵概畧三千余人ト傳フ



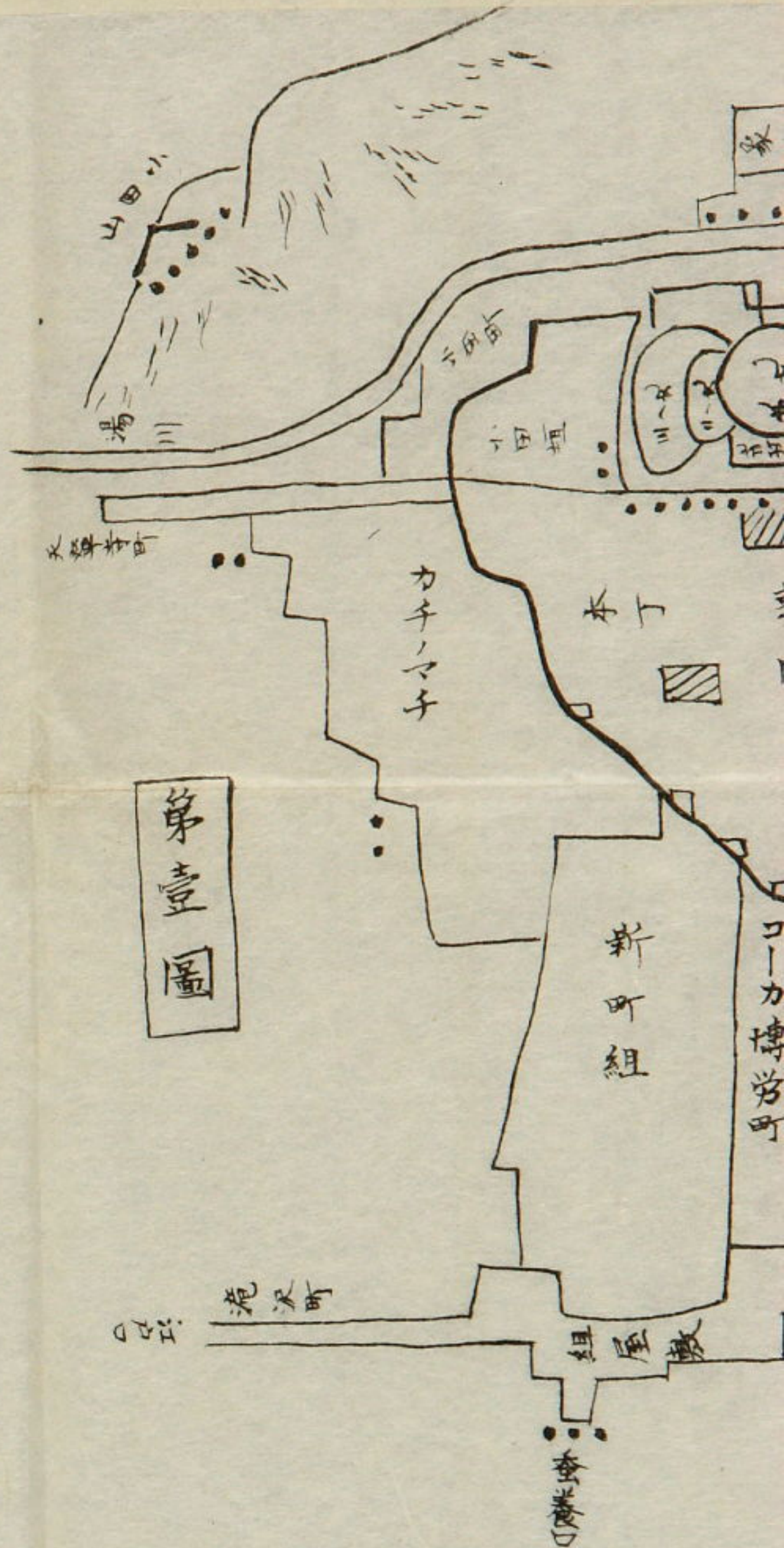
第二圖

第二圖ハ東南ニ方面ノ残兵諸隊兵若松本城ノ危急ヲ知り引揚ノ準備晝夜ノ別ナク陸續トシテ入城ス是ヨリ先寄手ノ參謀等議シテ白ク外郭ニ哨線張リ東北市街ヲ以テ宿營トシ郭内一被戰場ノ地ト定メシト城兵モ亦此意アリ謂

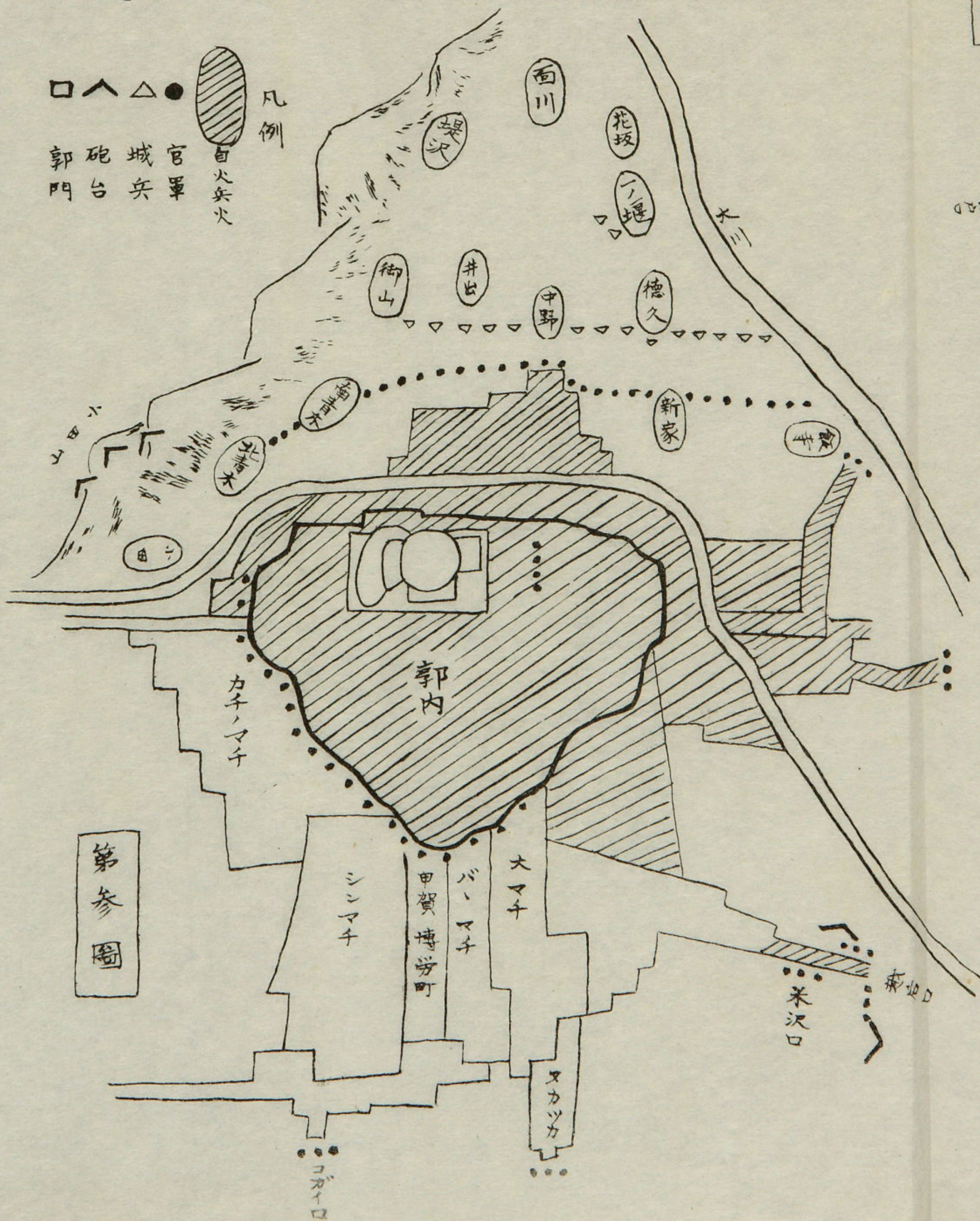
御用人所詰

階級トス  
 黒紐猪苗代城村  
 ル者多シ以上士分  
 御徒士共力等ヲ始メ  
 系讀所(俗ニ學館トス)  
 中、柿色洋巾、浅黄  
 制ニ其身命ヲ武  
 術、教訓ナカリシ  
 紐制格)御末(中  
 百俵渡セリ  
 共力ハ三石二人扶持  
 石数ハ本石ニシテ恰  
 永士ハ三十八俵ニ

第三圖官軍諸道ノ到着ヲ待シ東山道進  
 軍ハ大内關山ニ戰敗リ北陸道ノ軍勢ハ石間  
 赤谷ノ二關ヲ屠リ津川舟渡ニ戰ヒ氣多官ニ  
 於テ若松ノ官兵聯絡ヲ通シ着陣セシ何モ  
 九月初旬ヲ諸道ノ官軍陸續參着爲シ會  
 津ノ山野到ル處障地ナラセテ官軍幾ニ拾  
 万騎ト唱ス茲ニ於テ諸參謀會議十日總攻  
 ヲ令ス十四日ハ城兵出張シタル諏訪ノ郭融通寺口  
 ノ各營ヲ奪テ城中ニ押込ニ尚ホ進テ米代障  
 扱越後引揚ノ會津勢自國ニ入リテ各所ニ轉  
 戰終リ城南ニ出テ入城セントス官軍飯寺ヨリ東  
 青木ニ亘リ戰線以テ之ヲ迎ヒ撃テシトス九月十五  
 一壘ヲ本營トシ激烈ナル砲戰十七日ニ戰ヒシカ  
 會兵竟ニ敗リ之ニ籠城最終ノ戰争ナリト云傳フ  
 米ハ既ニ降り仙毛危殆ニ陥リ孤城援軍ノ道更  
 ニ絶ハ彌々切迫セリ

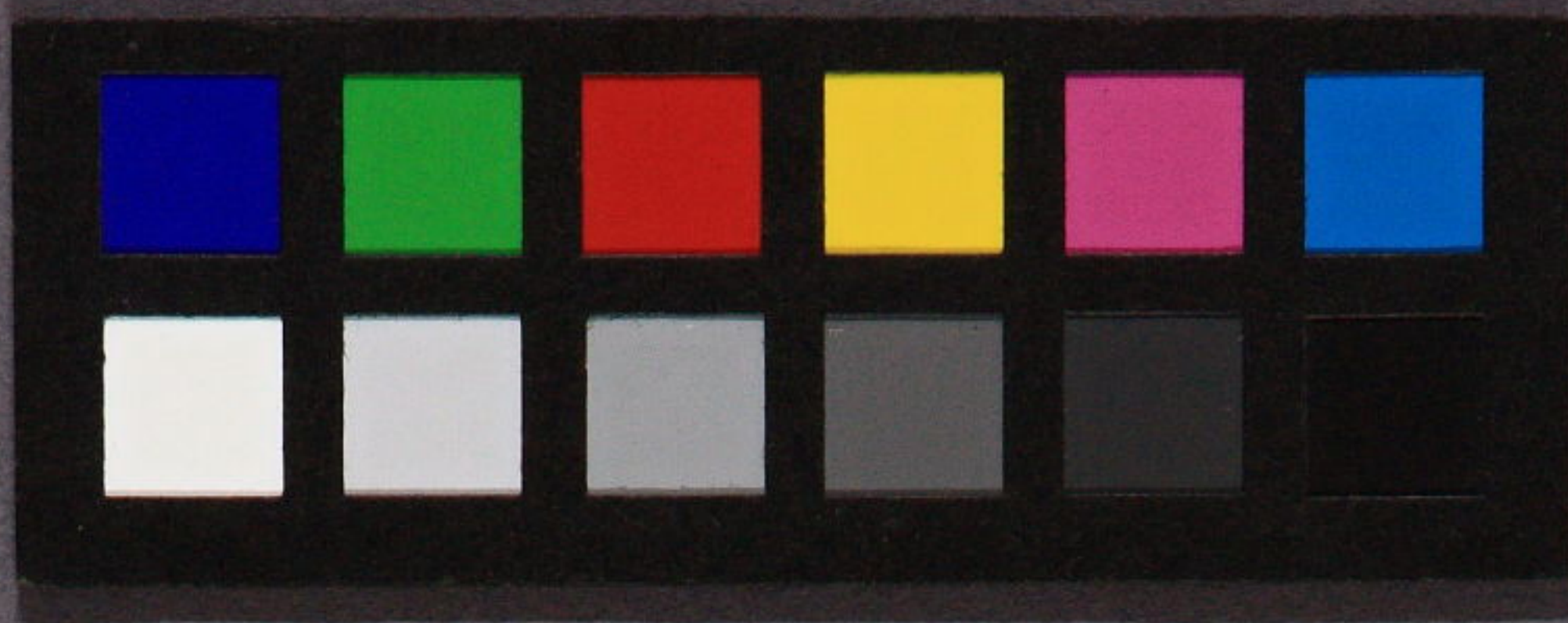


第壹圖

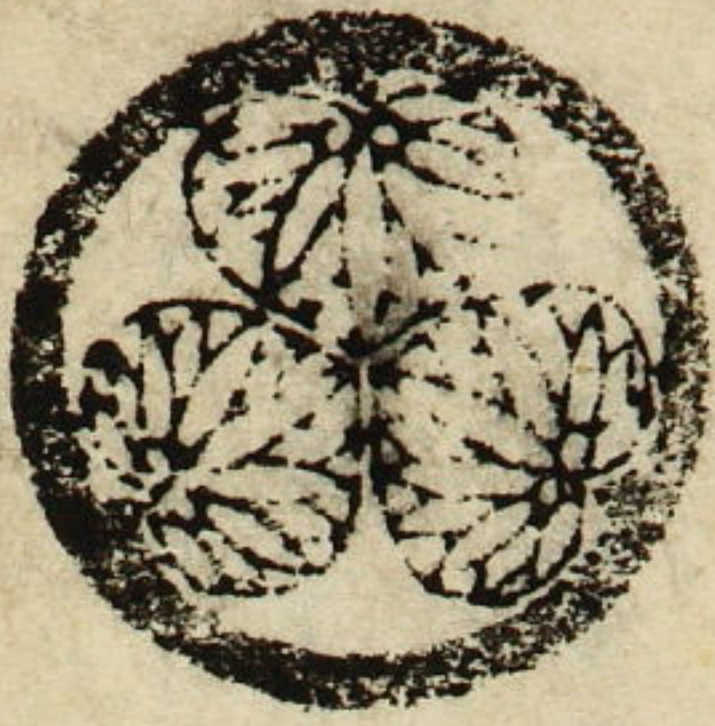


第參圖

夜ノ別ナク陸續トシテ入城ス是ヨリ先寄手ノ參謀等議シ白ク「外郭以テ哨線張  
 リ東北市街ヲ以テ宿營トシ郭内一被戰場ノ地ト定メシト城兵モ亦此意アリ謂  
 ハス語ラス互ニ放火シサレモ廣キ郭内ヲ日ナラズニ燒盡セリ而シテ官軍ノ桂林寺口ヨリ  
 寺口ニ亘リ諸藩ノ部署ヲ定ム城中既ニ兵滿ナリ敵ノ兵備完カラセリ知リ一撃以テ  
 之ヲ討拂ヒテ試ムルノ屢次毎戰利ヲ左下諏訪社ヲ占領シ夫ヨリ融通寺口河原町口  
 障地ヲ奪越後口ノ敵軍ニ對峙數度戰鬪アリ南西北方面ノ市街皆兵燹ニ罹レリ



會津



鶴城

加藤長四郎編輯

御本丸明細全圖

附録戊辰菟城畧誌

發行所

福島縣若松市

加藤高屋

